

大河原町の大河原南小学校では、令和5年12月9日に放課後子ども教室に通う1年生～5年生計20人を対象に、餅つき大会が行なわれた。

この行事は同小学校で行われている「もがり祭」の中で行われていたが、コロナ禍により中止が続いていた。同町のNPO法人「キハト会」が仲間と協力する大切さや、多くの人の関わりで暮らしが支えられていることを学んでほしいことから企画し、規模を縮小して4年ぶりの開催となった。

もち米は、子どもたちが自ら定植・収穫した「みやこがねもち」を使用しており、村田町の農業法人「サン・ファーム^{にらがみ}葦神」がほ場の提供や児童の田植えと収穫の手伝いを行った。

子ども達は大人に助けられながら杵を振るい、周囲からは「よいしょ、よいしょ」とかけ声が飛んだ。

出来上がった餅は、きなこ餅や雑煮にして振る舞われた。参加した児童は「自分で植え、収穫してついた餅はおいしい。食べ物とお世話をしてくれた皆さんに感謝したい」と話した。

餅つき後は、かるた取り大会や鬼ごっこなど、児童は元気いっぱい冬の日を楽しんだ。

田植えの様子



当日の餅つきの様子



【記事提供】大河原町農業委員会